

平成 22 年 5 月 6 日現在

研究種目：基盤研究(c)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520293

研究課題名(和文) サンスクリット大叙事詩マハーバータのテキスト形成史の解明に関する研究

研究課題名(英文) Studies on the textual formation of the Sanskrit great epic Mahabharata

研究代表者

土田 龍太郎 (RYUTARO TSUCHIDA)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：20163826

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：マハーバーラタ, ラーマヤナ, ハリヴァンシャ

1. 研究計画の概要

(1) サンスクリット大叙事詩マハーバーラタの内容構成および叙述の枠組を分析し、同叙事詩の形成過程を解明する。

(2) マハーバーラタと他叙事詩、例えばラーマヤナやハリヴァンシャ等との関連について調査考察し、マハーバーラタ形成の諸段階のおおよその年代を推定する。

2. 研究の進捗状況

(1) マハーバーラタの叙述の枠組の形成過程、およびそれぞれの枠組の基本性格を解明することができた。

(2) マハーバーラタの形成過程における付篇ハリヴァンシャの位置を解明することができた。またマハーバーラタとラーマヤナの内容的連関をある程度まで明らかにすることができた。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

(理由)

マハーバーラタ主要部の成立時が、マウリヤ朝時代もしくはそれ以前に遡ることを確認しえた。

4. 今後の研究の推進方策

(1) マハーバーラタの付篇ハリヴァンシャの第3部に注目し、その背景をなすシュンガ王朝の歴史を解明する。

(2) ラーマヤナ第7巻ウッタラカーンダの内容と構成を分析調査し、マハーバーラタの

テキスト形成史の諸問題に側面から光をあてたい。

(3) 他文化の神話・叙事詩をも概観し、マハーバーラタの基本性格をさらに解明したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

- Ryutaro Tsuchida, Consideration on the Narrative Structure of the Mahabharata. Studies in Indian Philosophy and Buddhism 15, pp.1-26. 2008. 査読有
- Ryutaro Tsuchida, Some Reflections on chronological Problems of the Mahabharata. Studies in Indian Philosophy and Buddhism 16, pp.1-25. 2009. 査読有
- Ryutaro Tsuchida, On the dynastic transition from the Sungas to the Kanvayanas. Studies in Indian Philosophy and Buddhism 17, pp.1-20. 2010. 査読有

[学会発表](計1件)

- Ryutaro Tsuchida, Janamejaya and Pusyamitra. The 14th World Sanskrit Conference. The University of Kyoto.